

# 製品別：設計・施工・使用上に関するご注意

## 耐火ガラス製品

### 個別

#### パイロクリア、パイロクリアJ、パイロクリアS共通

##### ●設計・施工上のご注意

1. ご採用にあたっては、耐風圧強度などをご検討のうえ、ガラス品種・呼び厚さ・面積を決定してください。
2. まれにガラスにできた深いキズが成長し、外力が加わっていない状態で不意に破損することがありますのでご使用にはご注意ください。
3. 強化ガラスとしての特性上、万一の破損時には全面破砕し破片が脱落することがあります。P.10「強化ガラスを安全にお使いいただくために」をご参照ください。
4. パイロクリアは一般の強化ガラスの2倍以上の強度がありますが、耐風圧強度計算については一般の強化ガラスと同一としてお取り扱いください。
5. パイロクリアは熱処理を施していますので熱処理をしていないガラスに比べて反射映像が乱れますのでご了承ください。特に熱線反射タイプ、高性能熱線反射タイプの場合は透明タイプよりもさらに反射映像の乱れが強調されます。反射映像の状況を正確に把握していただくために、モックアップ等でご確認ください。また、熱処理時に用いる搬送ロールの表面の凹凸が転写され、ロールの跡が残る場合もありますが、熱処理特有の現象ですので、ご了承ください。
6. 生産上の部分的な温度差の影響で、筋状、または斑状に模様が見える場合があります。
7. パイロクリアと熱処理を施していない通常のフロート板ガラスなどを隣合わせてご使用になられる場合、使い方によっては反射映像の乱れが目立ちやすくなる場合があります。
8. 30分の耐火性能が要求される耐火建築の屋根やトップライトなどへは網入板ガラス以外にご使用できません。また、防火用途以外でストーブののぞき窓など、100℃以上の高温に繰り返し、または継続的にさらされる用途へのご使用はお避けください。
9. 穴あけ、切り欠きなどはできません。また、切断や面取りなどはできませんので使用される寸法でご発注ください。
10. パイロクリアを単板ガラスとして使用する場合に比べて、複層ガラス（製品名：パイロペア）として使用する場合は室外からの反射映像は比較的目立ちにくくなりますが、室内からの反射・透視映像は複雑に乱れますのでご了承ください。また、合わせガラスとして使用する場合は透視映像が乱れますのでご了承ください。
11. 防火設備・特定防火設備はガラスとサッシ枠と一体で認定されます。認定を受けた際の仕様や施工法をご確認のうえご使用ください。認定を取得している防火戸メーカーの施工管理が必要です。

##### ●施工上のご注意

1. ガラスエッジにキズがつくと所定の防火性能が得られないことがあります。そのため運搬や施工にはご注意ください。
2. パイロクリアには全周に金属テープが巻いてありますがテープは剥がさずにそのまま施工してください。

##### ●使用・メンテナンス上のご注意

1. フロート板ガラスと比べて表面硬度が若干低いいため、クリーニングの際、金属スキージーはキズの原因になりますので、ご使用はお避けください。また、スキージーを使用する場合は、裏面の金具がガラス面に当たらないようご注意ください。

#### パイロクリアJ

##### ●設計・施工上のご注意

1. ご採用にあたっては、耐風圧強度などをご検討のうえ、ガラス品種・呼び厚さ・面積を決定してください。
2. まれにガラスにできた深いキズが成長し、外力が加わっていない状態で不意に破損することがありますのでご使用にはご注意ください。
3. 強化ガラスとしての特性上、万一の破損時には全面破砕し破片が脱落することがあります。P.10「強化ガラスを安全にお使いいただくために」にしたがってご使用ください。
4. パイロクリアJは板厚8mmのみになります。
5. 建築基準法 告示第1360号で例示されている仕様として防火設備にご使用される場合、サッシ枠・副資材についても告示の仕様をご確認の上、ご使用ください。
6. ガラスの製造可能最大寸法に加えて、告示仕様の場合、告示の対応寸法を確認の上、ご使用ください。尚、告示の対応寸法は躯体開口寸法で表記されているためご注意ください。
7. パイロクリアJは一般の強化ガラスの2倍以上の強度がありますが、耐風圧強度計算については一般の強化ガラスと同一としてお取り扱いください。
8. パイロクリアJは熱処理を施していますので熱処理をしていないガラスに比べて反射映像が乱れますのでご了承ください。また、熱処理時に用いる搬送ロールの表面の凹凸が転写され、ロールの跡が残る場合もありますが、熱処理特有の現象ですので、ご了承ください。
9. 生産上の部分的な温度差の影響で、筋状、または斑状に模様が見える場合があります。
10. パイロクリアJと熱処理を施していない通常のフロート板ガラスなどを隣合わせてご使用になられる場合、使い方によっては反射映像の乱れが目立ちやすくなる場合があります。
11. 30分の耐火性能が要求される耐火建築の屋根やトップライトなどへは網入板ガラス以外にご使用できません。また、防火用途以外でストーブののぞき窓など、100℃以上の高温に繰り返し、または継続的にさらされる用途へのご使用はお避けください。
12. 穴あけ、切り欠きなどはできません。また、切断や面取りなどはできませんので使用される寸法でご発注ください。
13. パイロクリアJを単板ガラスとして使用する場合に比べて、複層ガラス（製品名：パイロペアJ）として使用する場合は室外からの反射映像は比較的目立ちにくくなりますが、室内からの反射・透視映像は複雑に乱れますのでご了承ください。

#### パイロストップ

##### ●設計・施工上のご注意

1. パイロストップは屋内での使用とし、屋外での使用はお避けください。また、ガラスの使用場所の温度が50℃を超える環境下では、ご使用いただけません。
2. パイロストップは、日射が直接当たる部位ではご使用になれません。
3. パイロストップは、3ミリ厚の薄いガラスを重ね合せた製品のため、運搬や施工にあたっては、ガラスが破損しないよう十分ご注意ください。また、薄いガラスが、積層されているため透視映像や、反射映像が、乱れる場合がありますので、ご了承ください。
4. 運搬、施工時に全周に巻いてある金属テープは絶対に剥がさないでください。
5. 運搬、施工時にガラスコーナーを支点として、ガラスを回転させないでください。ガラスが破損するおそれがあります。
6. 穴あけ、切り欠きなどはできません。また、切断や面取りも出来ませんので、使用される寸法でご発注ください。